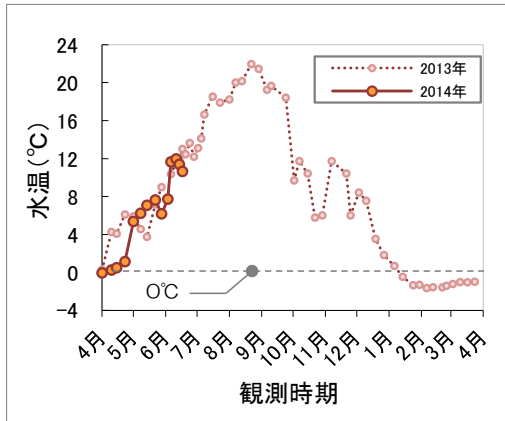


◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2014年6月)

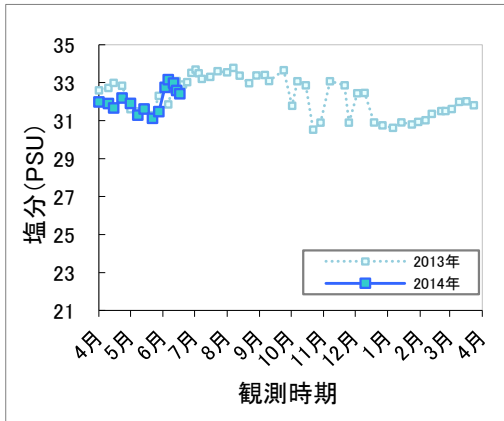
海洋環境データ

※観測：紋別市

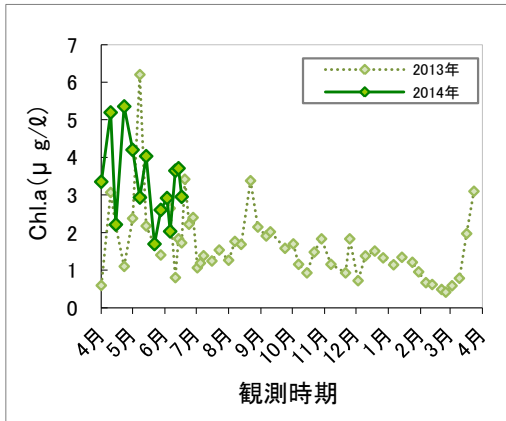
◎水温 (0~9mまでの平均値)



◎塩分 (0~9mまでの平均値)



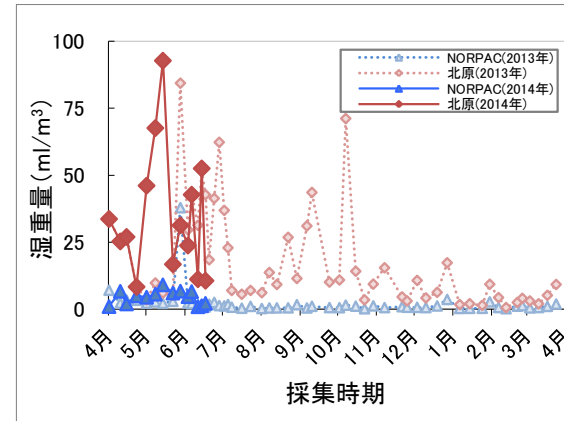
◎Chl. a (0~9mまでの平均値)



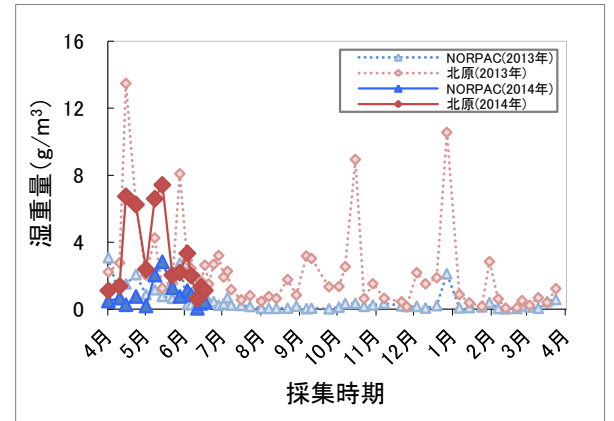
動物プランクトンデータ

※分析：(株)エコニクス

◎動物プランクトン・沈殿量



◎動物プランクトン・湿重量



概要

Table with 5 columns representing dates (6月2日, 6月9日, 6月16日, 6月20日, 6月24日) and rows for various parameters: 平均水温 (°C), 平均塩分 (PSU), 平均Chl.a (µg/L), 沈殿量 (ml/m³), 湿重量 (g/m³), 主な出現種, and 備考.

出現量の多かった種類

Grid of images and descriptions for various plankton species including Pseudocalanus newmani, Acartia longiremis, Oithona similis, Copepoda (nauplius), and Balanomorpha (nauplius).

※種名の先頭に"◎"がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[...]内の"++"は分析者主観による個体数の多さを示す(+)出現、(++)やや多い、(+++)多い、(++++)かなり多い、(++++)極めて多い。

※種名の後ろの記号は、北海道において後述の性質が強い種類を示す(◆冷水性種、◆暖水性種、◆汽水性種)。

※今月のサンプルには珪藻類(植物プランクトンの仲間)、腐植質(主に枯死・分解した植物由来の物質)が多く含まれており、沈殿量および湿重量には植物プランクトンの重量も含まれている。

※参考文献：①千原・村野(1997)日本産海洋プランクトン検索図説[東海大学出版会]②山路(1966)日本海洋プランクトン図鑑[保育社]③岩国市立ミクロ生物館(2011)日本の海産プランクトン図鑑[共立出版]

④Wilson, M. S., 1966. North American Harpacticoid copepods. 8: The Danielssenia sibirica group, with description of D. stefanssoni Willey from Alaska. Pac. Sci. 20 (4), 435-444.

⑤Pinchuk, A. I., Hopcroft, R. R., 2006. Egg production and early development of Thysanoessa inermis and Euphausia pacifica (Crustacea: Euphausiacea) in the northern Gulf of Alaska. J. Exp. Mar. Biol. Ecol. 332, 206-215.

⑥林(2006)水産無脊椎動物学入門(恒星社厚生閣)